

令和6年度 学校評価

王寺町立王寺南義務教育学校

教育目標 「学び続けて未来を拓く～自律、挑戦、協創～」

運営方針

- ①児童生徒の実態を把握し、児童生徒が主役で、安心・安全に学校生活を送ることができるよう教育活動を進める。
②開校3年目を迎え、分離型義務教育学校ならではの取組(9年一貫教育)を進める。

※児童生徒、保護者アンケートの結果については、
肯定的回答の割合が、 A:80%以上 B:79%～60% C:59%～40% D:39%以下 として、自己評価に反映。
※自己評価については、 できた…A どちらともいえない…B 課題が見られる…C の3段階で評価。

※自己評価の妥当性については、
妥当である…○
妥当ではない…△ として評価

大項目	中項目	小項目	評価指標	児童生徒、保護者アンケート結果 (数値%はアンケートの肯定的回答)	取組と成果 教員アンケート結果 (数値%はアンケートの肯定的回答)	自己評価	課題・改善方策	学校関係者評価	
								自己評価の妥当性	学校への助言等
I 教育活動に関するもの	I 教育活動全般	(1) 教育目標 (2) 教育活動の評価	児童生徒が充実した生活を送っている。	◎学校は楽しい。 1～4年 90% ◎充実した学校生活を送っている。 5～7年 91% 8～9年 94% 保護者 92% ○学校は落ち着いて学習できる雰囲気である。 保護者 78% ◎子どもたちは、部活動など自分のしたいことに熱心に取り組んでいる。 保護者 88%	◎児童生徒が充実した学校生活を送れるよう努めている。 教員 100% ◇安心・安全に学校生活を送ることができるよう、全職員一丸となって、教育活動を進めた。 ◇4・8・9年生が範となり、落ち着いた学校生活を送ることができている。	A	□学校教育目標である「自律・挑戦・協創」について、児童生徒への意識付けを日頃から継続的にを行い、自分で決めて行動し、目標に向かってやり抜き、人に優しい子どもの育成を目指す。 □学校行事を中心に、上級生が率先して運営する機会を増やし、児童生徒が主役の学校づくりに取り組む。	○	▲学校は落ち着いて学習できる雰囲気である、という問いについて、教職員と保護者のアンケート結果の数値に乖離が見られることが気になる。
		児童生徒が行事等に生き生きと取り組んでいる。	◎係や当番の仕事や児童会(委員会)活動、クラブ活動・部活動などに積極的に取り組んでいる。 1～4年 93% 5～7年 93% 8～9年 93% 保護者 92% ◎子どもたちは様々な行事に生き生きと取り組んでいる。 保護者 94%	◎児童生徒会活動の活性化に向けた取組を行っている。 教員 94% ◇児童生徒会活動、スマイル活動、学校行事等の計画について、児童生徒が中心となって運営できるよう見直しを図った。 ◇外部人材を活用した体験的な学習を積極的に行うことができた。	A	□今年度、学年区切りの儀式的行事は保護者を招いてすべて実施した。 □今後さらなる4-3-2制の各学年区分を意識した取組の充実に向け、特に5・7年がリーダーシップを発揮できる機会の創出に努める必要がある。	○		
	2 学習指導及び学習環境	(1) 学習意欲 学習環境	落ち着いた環境の中で、学力向上を目指し、児童生徒の意欲を高める取組を進めている。	◎授業を通して「できたこと」「わかったこと」が増えたと感じる。 1～4年 95% 5～7年 93% 8～9年 95% ◎授業を通して、「伝える力」や「考える力」がついた。 5～7年 92% 8～9年 87% ○学校は、落ち着いて学習できる雰囲気である。 保護者 78%	◎教員が互いの授業を見合い、指導力の向上を図っている。 教員 85% ◎総合学力調査の結果分析をもとに、9年間の系統的な教科指導を行っている。 教員 87% ◇「分かりやすい授業」を心がけ、児童生徒の学習意欲を高める指導に努めている。 ◇各テストの結果や授業の振り返りを授業改善に生かすように努めている。	A	□全ての児童生徒にとって分かりやすい授業として、視覚的に示すことや、明確な発問・指示・助言など、基本的なことを改めて学校全体で意識して取り組む。 □汎用的基礎読解力(リーディングスキル)の向上のために研究、研修を行ってきており、スキルを向上させる必要のある分野の内容を中心に普段の授業で意識する必要がある。	○	●本離れを阻止するため、様々な取り組みを今後も継続的に実施することを期待する。

		(2) 新たな環境を生かした指導方法の工夫改善	デジタル教科書等のICT機器を活用した授業を進めている。	◎クロームブックやデジタル教科書などのICT機器を活用した授業は、わかりやすい。 1～4年 92% 5～7年 90% 8～9年 82% 保護者 84% ◎学校は、デジタルドリルや総合学力調査など様々な工夫をして学力向上に努めている。 保護者 82%	◎ICT機器を効果的に活用した学習を行っている。 教職員 97% ◇ICT支援員のサポートにより、充実した活動(全国学力学習状況調査・CBT・アンケート等)ができた。 ◇PTA運営委員会等で、保護者や地域に活用方法を周知できた。	A	□ICT支援員の協力の下、学習意欲を喚起する授業づくりにさらに取り組む。 □クロームブックの使い方については、さらに保護者への注意喚起も含め呼びかけが必要である。 □ベネッセの総合学力調査の結果を指導に生かすよう、デジタルドリルを活用し基礎学力の定着とともに、個別最適な学習の推進に努める。	○	●ICT機器を活用した学習と、これまでの学校教育で大切にしてきた方法との併用して、学力向上を目指すことを期待する。
			自分にあった学習をするなど、個別最適化の学習を進めている。	◎デジタルドリルなどを使い自分にあった学習課題に取り組む、できなかったことができるようになった。 1～4年 91% 5～7年 80% 8～9年 65%	◎デジタルドリルなどを活用した個別最適な学習を行っている。 教員 93% ◇太子学舎では40分授業、畠田学舎では45分授業、さらに、モジュール学習や30分のいつ今タイムを実施し、個別最適な学習の在り方の研究を進めた。	A	□いつ今タイムの活用方法については、来年度より授業時数特例校の指定を受け、畠田学舎において、5～9年で週4コマ30分を、児童生徒の夢の実現に向けた自己調整学習に充てる取組を進める。 □デジタルドリルについては、いつ今タイムでの活用を中心に、特に8～9年で研究を進める必要がある。	○	●個別最適な時間において、探究的な学習を中心に取り組みを進めていることがよい。
		(3) 情報化への対応 (プログラミング教育、リーディングスキルの育成、メディアセンターの活用)	メディアセンターを活用し、読書や調べ学習を進めている。	◎プログラミングの授業は楽しい。 1～4年 94% 5～7年 82% 8～9年 67% ○メディアセンターを活用して読書や調べ学習ができた。 1～4年 94% 5～7年 72% 8～9年 58% ○子どもたちは、読書をする機会がある。 保護者 77%	○学校ではプログラミングの授業を行っている。 教職員 69% ◎メディアセンターやICT機器を効果的に活用し、自ら課題を見つけ解決する学習を進めることができています。 教職員 93% ◇学校司書の協力を得て、本の貸し出しなどを積極的に進めている。 ◇図書委員会のおすすめの本紹介、オンライン読書会、ビブリオバトルへの参加、ボランティアによる読み聞かせ等も行った。	B	□プログラミングの授業に関しては、教科が限定されるため、教職員の数値は低くなっている。 □より読書に親しむため、読書活動を充実する仕掛けを家庭や学校司書と連携していく。 □読解力向上のための研究で連携している教育研究所とタイアップして、読書活動を推進する取組の充実を図る。	○	●様々な角度から読書に興味を持てるように工夫していることが素晴らしい。 ▲学年が上がるごとにメディアセンターの利用率が下がっている傾向にあるので対応が必要である。
		(4) グローバル化への対応(英語教育の推進)	英語教育に肯定的な回答を85%以上にする。	◎英語を使って会話をすることは大切だと思う。 1～4年 88% 5～7年 87% 8～9年 79% ◎学校は、ALTの活用や英語教育の推進に取り組んでいる。 保護者 83%	◎ALTを活用した英語教育に取り組んでいる。 教職員 97% ◇3年生以上は、専科教員による指導、全学年でALTを活用した授業に取り組んでいる。 ◇1～9年生対象に英検講座を実施し、100名が受検した。	A	□英語科教員を中心に、環境整備も含め取組の一層の充実に努める。 □英検講座の周知を図り、受検者を増やし、9年生で英検3級以上を目指す。	○	●学校を準会場として、英検を受検できる機会があることは、児童生徒にとってよいことだと思う。
		(5) 和プロジェクトの推進	王寺を知る、考える、関わる取組を進める。	◎王寺町についてさまざまなことを知り、考えることができた。 取組を行っている。 1～4年 92% 5～7年 84% 8～9年 68% ◎学校は、王寺町に関わる取組を行っている。 保護者 85%	○和プロジェクトの取組として、王寺町を知る、考える、関わる取組を行っている。 教職員 79% ◇菜種油搾り体験、休耕田の芋ほり、観光ボランティアによる町探検、子ども一日町長体験、子ども議会体験等を実施した。	B	□各学年で実施しているゲストティーチャーによる取組を学校全体で整理し、系統的かつ効果的に進められるよう計画を見直していく必要がある。 □町制100周年に向けた取組を実施する。	○	●町制100周年に向け全校児童生徒に意識づけをしている。

3	生徒指導	基本的生活習慣 規範意識 社会性	あいさつなど、児童生徒に基本的な生活習慣、規範意識を身に付けている。	◎学校のきまりや社会のルールを守って生活している。 1～4年 97% 5～7年 97% 8～9年 97% 保護者 90% ◎学校は、児童・生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせようとしている。 保護者 90% ◎協力して掃除をしている。 1～4年 95% 5～7年 95% 8～9年 90%	◇学校生活のきまりを統一している。教員のきめ細かな指導により、落ち着いて学習ができる環境にある。 ◇伝統である南中式清掃を中心に異学年交流を実施し、先輩から後輩へ清掃方法を伝承している。 ◇全体的に、基本的生活習慣や規範に対する意識は高い。	A	□全ての教員が危機意識をもって、日々児童生徒と関わるようにする。 □生徒指導主事、学年主任、管理職による情報共有会議を隔週で実施し、「報連相」を大切に、連携して事象に対応していく。 □オンラインによる全校朝会等の機会を活用し、目標や夢、生活ルールの確認、表彰伝達等による自己肯定感の涵養などを進める。	○	
		教育相談の充実	児童生徒の悩みや相談にいてねいに 対応している。	◎自分の悩みや話を聞いてくれる友だちや先生がいる。 1～4年 94% 5～7年 89% 8～9年 91% ○先生は、児童生徒と信頼関係があり、児童生徒の悩みや相談に丁寧に対応している。 保護者 75%	◎児童生徒の悩みに丁寧に対応している。 教職員 100% ◎教育相談などを通して、児童・生徒の心のケアに努め、いじめや不登校などへの早期対応につながる指導を行っている。 教職員 97% ◇SCと連携し、コンサルテーションやケース会議を適宜実施した。また、隔週で教育相談部会を開催し、情報を共有した。 ◇不登校傾向にある児童生徒に対して、やわらぎ教室を中心とした居場所づくりに取り組んでいる。	A	□アンケートを定期的 に実施し、児童生徒の実態把握に努め、教育相談習慣に対話を行う。 □やわらぎ教室の運用について、今年一年の取組から改善を図り、児童生徒が登校できるよう保護者と連携する。 □SCとの連携を進め、命に関わる案件については、関係機関と連携し迅速に対応する。 □不登校児童生徒の増加が課題である。生徒指導部と教育相談部が連携して取組を今後一層進める。	○	▲児童生徒と信頼関係があり、児童生徒の悩みや相談に丁寧に対応している、という問いについて、教職員と保護者のアンケート結果の数値に乖離が見られることが気になる。 ●児童生徒にとっての居場所作りは大切なので、やわらぎ教室の運営を継続することを期待する。
4	特別活動及び総合的な学習	学校行事 児童会活動 生徒会活動 部活動	様々な行事に意欲的に取り組み、充実感や達成感を感じている。	◎係や当番の仕事や児童会（委員会）活動、クラブ活動・部活動などに積極的に取り組んでいる。 1～4年 93% 5～7年 93% 8～9年 93% 保護者 92% ◎子どもたちは様々な行事に生き生きと取り組んでいる。 保護者 94%	◎児童生徒会活動の活性化に向けた取組を行っている。 教員 94% ◇学校行事や学年行事で、児童生徒が発達段階に応じて主体的に活動できるよう努めた。	A	□太子学舎においては、4年生が中心となり活動を実施し、畠田学舎においては、児童生徒会に5・6学年代表の児童も参画することで自治的な活動を進められるようにする。 □特別活動の目的を児童生徒に示し、自主性、主体性の涵養に努める。	○	

	の 時 間 等		異学年交流を工夫し、よりよい人間関係づくりに努めている。	◎他学年の人と一緒に活動することは楽しい。 1～4年 93% 5～7年 82% 8～9年 85% ◎行事や日々の中で下級生の手本となるように意識し、活動している。 1～4年 88% 5～7年 80% 8～9年 74% ◎行事や日々の中で上級生・同級生から学ぶことがある。 1～4年 86% 5～7年 78% 8～9年 85% ◎子どもたちは、異学年との交流を楽しみにしている。 保護者 80%	◎学校行事や教育活動の中で、異学年交流を工夫し、よりよい人間関係づくりに努めている。 教職員 97% ○4-3-2制の取組を推進している。 教職員 65% ◇特別活動部が中心となって、異学年交流を企画・運営した。(運動会、体育大会、文化発表会(音楽会)、1年生を迎える会、9年生を送る会、球技大会、かるた大会 など) ◇日常的に異学年が交流している場面を、王南通信や学年通信で伝え、視察に来られた方々へは児童生徒会がスライドを用いて紹介した。	A	□人を大切にする力を育むため、学校行事を通して人間関係の構築を図る。 □運動会と体育大会の各学年の表現演技については、互いに披露することで刺激と感動を得られる機会を設定する。 □今後は、4-3-2制の各学年区分を意識した取組の充実に向け、学年主任を中心に異学年が連携し、学校行事の実施を検討している。	○	●異学年交流を通して、リーダー性を発揮する上級生への憧れを醸成することができている。 ▲太子学舎と畠田学舎の相互交流について、検討する必要がある。
	進路指導 キャリア教育	勤労観や職業観を養い、将来の進路や生き方を考えさせる指導をしている。	◎目標に向かってあきらめずに取り組んでいる。 1～4年 95% 5～7年 94% 8～9年 90% ◎学校では、将来の進路、夢、目標について学習する機会がある。 5～7年 94% 8～9年 97% ◎学校は、子どもたちに自分の目標に向かって粘り強く取り組むよう指導している。 保護者 80% ○学校は、子どもたちに、将来の生き方や進路を考えさせている。 保護者 76%	◎学校では探究的な学習を実施している。 教職員 87% ◎児童生徒に将来の夢や生き方、進路について考えさせようとしている。 教職員 94% ◇ゲストティチャーによる講義と実技(バスや消防自動車の見学、陶芸教室、葛餅づくりなど)、福祉体験、企業見学、夢先生、進路学習等を中心にキャリア教育の取組を進めている。 ◇4年生で「旅立ちの式」、7年生で「立志式」を実施し、節目を意識させることで、今後の目標を立てる機会としている。	A	□9年生の進路選択を中心としたキャリア教育について、職業観や勤労観をより豊かに育むため、教育課程上、中心的な役割を果たす教育活動が、道徳科や特別活動であることを意識した上で、学校全体で系統的に取り組む必要がある。 □キャリアパスポート等を活用し、9年間を見通したキャリア教育を計画的に進める。後期課程で将来の生き方や職業などを考えさせる取組(夢先生・企業プレゼン等)を進める。	○	●早い段階から受験を含め、将来への夢や希望を抱く機会があることが素晴らしい。	
	5 全 職 員 が つ な が る 指 導	人権教育	命や人と人とのつながりを大切にする取組をしている。	◎いじめを許さず、命や人と人とのつながりを大切にしている。 1～4年 97% 5～7年 97% 8～9年 97% ◎学校は児童生徒間の人間関係を大切に、いじめを許さない教育をしている。 保護者 83%	○人権教育の重要性を認識し、一人ひとりを大切に教育を行っている。 教職員 97% ◇見守る子研修を実施し、実態や取組を共有している。 ◇郡人教実践報告(5・8年)に向けた校内研修を通して、児童生徒の実態や取組を全校で共有し、共通理解を図った。	A	□人を大切にする力を育むため、命を大切にすることや、どうすればいじめがなくなるかを児童生徒と考え、教育相談等の取組を継続する。 □授業参観や実践報告等を通して、教職員自身の人権感覚を磨く取組を継続する。	○	▲重大事案につながるいじめは見られないようだが、小さなものはあると思われるので、日々の児童生徒の様子を観察すること。

		特別支援教育	一人一人が心地よく過ごせる学級・学年の雰囲気づくりに努めている。	◎学校には安心して過ごせる雰囲気がある。 1～4年 92% 5～7年 81% 8～9年 84% ◎学校は、特別支援教育を充実させ、個に応じた指導を行っている。 保護者 95%	◎ユニバーサルデザインを意識し、一人ひとりが心地よく過ごせる学級・学年の雰囲気づくりに努めている。 教職員 98% ◎特別支援教育を充実させ、個に応じた指導を行っている。 教職員 97% ◇自立活動を異学年交流を通して積極的に行い、サーキットや野菜の販売等の日常生活の場面を想定した授業を展開した。 ◇通級指導教室を全学年対象に実施した。 ◇見守る子研修も実施し、児童生徒理解を深めている。	A	□特別支援学級に入級したり通級指導を必要としたりする児童は増加傾向にある。対応できる体制の整備が課題である。 □見守る子研修に加えて、特別支援教育に関する研修として、児童生徒への関わり方や支援の仕方等を充実させる必要がある。 □後期課程については、県立高等学校への進学を希望する生徒への支援の在り方について、自立活動とナチュラルサポートによる通常学級での支援のバランスを考えた個別の指導計画の作成など、義務教育からの出口を見据えた指導を重視する。	○	
Ⅱ 学校運営に関するもの	Ⅰ 組織運営	学校運営への参画 校務分掌の活性化	各分掌・学年の連携が円滑に行われている。		◎日頃から業務に対して効果的に取り組み、教育活動の充実に努めている。 教職員 97% ◇運営委員会・職員会議、学年会を定期的に開催している。 ◇校務分掌をの見直しに着手し、総括会議を充実させ次年度に繋げていく。	A	□校務分掌を基に、一人一役を基本に学校運営への参画意識をもてるようにする。 □部会で予定している協議事項を全職員が把握できるよう、ICTを活用するなどし、会議を円滑に進める工夫が必要である。	○	
		校内研修 授業研究	教育実践や指導方法の改善に役立つ研修を行っている。	○子どもたちは、まわりの人にわかるように自分の思いや考えを伝えている。 保護者 74%	◎言語活動(RS)の充実に向けた学習を行っている。 教職員 96% ◎教員がお互いに授業見学を行い、指導力の向上を図っている。 教職員 85% ◇校内研修や公開授業を実施した。研究協議に県教委から指導主事を招聘し、指導力の向上を図った。 ◇若手教員が自主的に授業公開を実施し、指導力の向上につなげた。 ◇「読解力向上」と「教職大学院学校実習」の協力校として取り組んだ。外部機関(県立教育研究所、奈教大、教職大学院)との連携を生かして研究を推進した。	A	□「主体的に学習に取り組む、課題を解決できる児童・生徒の育成」を研究主題とし、目指す子ども像を意識して研究を進めた。 □全国学力学習状況調査や総合学力調査、リーディングスキルテストの結果を全職員で分析することで、児童生徒の学びをサポートしより理解が深まる意識と工夫が必要である。	○	▲自己表現力や発表するプレゼンテーション能力を身につける学習に取り組む必要がある。

		働き方改革	デジタル化により、業務軽減を図っている。		◎日頃から業務に対して効果的に取り組み、教育活動の充実に努めている。 教職員 97%	A	□校務支援システムを中心に、クラスルームやジャムボードの活用をシンプルにする。 □校務支援システムや、新たに県が導入したWeb入試システム等への対応に時間を要する。来年度からのシステムについても早期に慣れる必要があるが、それまではさらに勤務が超過することも予想される。 □週1回以上の定時退勤を目指すためには、勤務時間を超える部活動をやめる必要がある。令和8年以降の部活動の在り方と併せて現在検討中である。	○	●オンラインによる会議を実施するなど、業務の効率化を推進できている。
2	教育環境及び安全管理	安全管理 安全教育	安全で安心な学校への取組を推進する。		◇王寺町母の会や西和警察、西和消防署と連携を図り、避難訓練や交通安全教室、不審者対応訓練等を実施。児童生徒の安全意識の向上を図った。 ◇1～4年および保護者で、緊急下校訓練を実施した。 ◇食物アレルギー対応研修、救命救急講習会、携帯電話使用に係る安全教室等を計画的に実施している。 ◇警察や母の会と連携し、通学路の危険所点検や交通ルールの遵守を指導している。	A	□引き続き、関係機関と連携して、安全管理、安全教育を進める。 □食物アレルギーシュミレーション研修を毎年実施する。 □次年度も保護者の協力のもと、緊急時の引き渡し訓練を実施する。	○	●心肺蘇生に関するAED研修、食物アレルギーシュミレーション研修、不審者対応研修等、児童生徒の命に関わる内容について講師を招聘して教職員研修を今後も継続することを期待する。 ●王寺町役場や地域の自主防災会と連携し、防災訓練を実施し、防災への意識向上が図れている。
			日頃から環境整備・施設整備に努めている。	◎学校は環境美化や施設整備に努め、学習環境が整っている。 保護者 88%	◇管理職、教務員を中心に校舎の安全管理、施設管理に努めている。 ◇学習意欲の喚起につながるよう、各フロアの掲示として学習教材、ワークシートの配置、ポスター掲示などを行った。	A	□日常の些細な変化を捉え、児童生徒が安全に過ごせるよう町教委と連携を図る。 □掲示物等の工夫により、学習意欲を高める環境づくりを進める。	○	
3	地域と共にある学校	保護者・地域住民との連携・協力	懇談会・家庭訪問を実施し、連携できる機会をもっている。	◎学校は、学校だより・学年通信・ホームページなどで、学校の様子を分かりやすく伝えている。 保護者 85%	◎家庭や地域と連携しながら、わかりやすく情報発信を行っている。 教職員 100%	A	□メール配信により学校HPにアップしたことを通知し、きめ細かな情報発信を行う。 ○情報発信については、さらに分かりやすい情報発信の在り方を、保護者・地域等の意見を聞きながら検討する必要がある。	○	▲地域社会への学校教育活動の理解と協力を得られるよう、学校の取り組みに関する情報発信の方法をさらに工夫が必要である。
			外部の地域人材を活用して、教育活動を進めた。	◎学校は、保護者や地域の方々、ボランティアの方々や連携しながら教育活動を進めている。 保護者 90%	◎保護者や地域の方々、ボランティアの方々や連携しながら教育活動を進めている。 教職員 95%	A	□保護者ボランティアを定期的に募り、学習支援をとおして学校を知る機会を充実させる。 □外部人材の活用状況を学年ごとに整理し、学校全体で計画的、継続的に支援いただけるようにしていく。	○	